

ねらい：登場人物の心情の変化を捉えるために、様々な表現に着目することで、表現の効果を認識し、自分も使ってみようという思いをもつ。

	出会う	親しむ			生かす			
学習活動	1 出会い・課題設定 物語を読み、感想を基に学習課題を考える。	2 見通し・課題追究① 学習計画を立て見通しをもつ。登場人物の相互関係と中心人物の心情の変化を捉える。	3 課題追究① 登場人物の相互関係と中心人物の心情の変化を捉える。	4 課題追究① (本時) 中心人物の心情や心情の変化を捉える。(飛べなくなるまで)	5 課題追究① 中心人物の心情や心情の変化を捉える。(飛べなくなってから)	6 課題追究② 人物の相互関係や中心人物にとっての対人物の存在について話し合う。	7 課題追究② 人物の相互関係や中心人物にとっての対人物の存在について話し合う。	8 課題追究のまとめ 単元の学習を振り返り、表現の効果について考える。
	① 題名「風切るつばさ」から、どのような物語か考える。 ② 「風切るつばさ」を読み、登場人物や展開など、物語の大まかな構成を確かめたり感じたことを出し合ったりして、単元の学習課題を設定する。 ③ 初発の感想を書く。(心に残った・みんなが考えたい・気に入った表現)	① 感想を共有しながら読みの課題を考える。 【読みの課題】クルルは、なぜ飛べなくなり、なぜ飛べるようになったのか ② 学習計画を立て、単元名を付ける。 ③ 人物相関図を描き、カララや仲間との関係、それぞれの場面での心情や人物像を整理する。(関係・人物像・心情)	【読みの課題】クルルは、なぜ飛べなくなり、なぜ飛べるようになったのか ① 人物相関図を描き、カララや仲間との関係、それぞれの場面での心情や人物像を整理する。(関係・人物像・心情) ② どのような表現に着目して相関図を描いたのか、グループで共有する。 ③ 読みの課題に対する現段階での自分の考えを書く。	【読みの課題】クルルは、なぜ飛べなくなり、なぜ飛べるようになったのか ① クルルが飛べなくなるまでの出来事や周囲との関係の変化に着目し、クルルの心情や心情の変化を話し合う。 ② 自分の考えをまとめる。 【着目させたい表現】みじめ・みっともない雑音 副助詞：～だまるしかなかったカララでさえつばさの音すら	【読みの課題】クルルは、なぜ飛べなくなり、なぜ飛べるようになったのか ① クルルが飛べなくなってからの出来事や周囲との関係の変化に着目し、クルルの心情や心情の変化を話し合う。 ② 読みの課題に対する自分の考えをまとめる。 【着目させたい表現】対比：つばさの音・はばたき みっともない雑音・心地よいリズム まい上がないぐんぐんとのぼっていく プライド	【単元の学習課題】クルルにとってカララはどんな存在か ① クルルとカララの関係について改めて考え、自分の考えをまとめる。 ② クルルにとってのカララの存在について、グループで話し合い、考えをまとめる。 ③ ホワイトボードに人物相関図を作り、発表の準備をする。 【着目させたい表現】人物像や人物の相互関係を表す言葉 カララの行動・言葉	【単元の学習課題】クルルにとってカララはどんな存在か ① ワールドカフェ形式でそれぞれのグループの考えを交流し合う。 ② 「クルルにとってのカララの存在とは、どのようなものか」を意識して、学習課題に関する自分の考えをまとめる。 【着目させたい表現】人物像や人物の相互関係を表す言葉 つばさ	① 各自の学習課題についてのまとめを読み合う。 ② 物語の中で心に残った表現やその効果を考える。 ③ 学習感想を書く。 ・表現の効果 ・物語を読むときに着目すること 【着目させたい表現】風切るつばさ
児童の意識	○「風切る」や「つばさ」は、爽やかで前に進んでいきそうな感じの言葉だね。 ○カララのおかげで飛べたんだね。 ○カララは最初クルルを助けなかった。本当にクルルとカララは友達なのかな。 →単元の学習課題：クルルにとって、カララはどんな存在か ○クルルが、また飛べるようになったところが心に残った。 ○クルルはどんな気持ちだったのかな。 →読みの課題：クルルは、なぜ飛べなくなり、なぜ飛べるようになったのか	○物語が進むにつれて人物同士の関係が変わっているなあ。 ○「仲間」と「友達」が出てくる。「友達」は、カララのことだろうな。「友達も仲間も何もかもが信じられない」ってかなり辛い状況だね。 ○「だれ一人、味方はいない」や「だれ一人、分かっておしなない」「たった一羽でいるしかなくなったみじめな自分」という表現から、クルルの孤独や苦しさや強さや伝わってくるね。 ○クルルは面倒見がよい鳥だね。自分からは「助けて」を言えないちょっと頑固なところもあるかな。人を責めない優しさもある。 ○カララは、周りの様子を見て遠慮しちゃうところがある。仲間と一緒に旅立っただけ戻ってきてクルルのそばでじっと信じて待つという強さもあるんだな。 ○キツネがカララを襲ったのがクルルが飛べるようになったきっかけだけど、キツネが来なくてもカララがいたからもうすぐ飛べたんじゃないかな。 ○最後、一緒に南に飛んでいくところで、クルルとカララの関係が元に戻った気がする。	○「だまるしかなかった」は、だまる他にできることが無い感じて、「だまった」は、だまることを自分で選んだ感じ。「しか」があるのと無いのとでずいぶん変わってくるな。 ○「カララでさえ」から、自分の味方だと思っていたカララまでもが…とクルルのショックと孤立した苦しさや伝わってくる。 ○うまくできない自分を「みじめ」に思ったから「みっともない雑音」に聞こえたんだ。自分のことがどどん嫌いになって自分を責めたから飛べなくなった。クルルはものすごく苦しかっただろうな。	○カララが何も言わずにただじっとそばにいたからクルルの心がほぐれてきたんだね。 ○「風を切るつばさの音が、こちよリズムで体いっぱいにびびきわたった」からクルルの気持ちが前向きになったことが分かるね。 ○「つばさの音」は、飛べなくなったところにも出てきた。その時には「みっともない雑音」って書いてあった。つばさの音でクルルの気持ちを表しているんだ。 ○クルルが「もちろんさ」と答えて一緒に行ったのは、カララが「一緒に行ってくれるかい」って頼んだからかな。	○カララは最初クルルが一人ぼっちになったときに助けなかったよね。自分だったら、許せないかもしれないな。 ○クルルにとってカララは、とっても大事な存在だね。「カララでさえ」背を向けたからクルルは孤独になってしまったし、自分を責めてしまったのだと思う。仲間が離れていてもカララが寄り添ってくれさえいたらクルルは飛べなくならなかったかもしれない。 ○カララが死を覚悟して寄り添ってくれたから心が解けて、カララが言ったから一緒に南に行こうと思ったんじゃないかな。他のツルだったら行かなかったかもしれないよね。 ○クルルとカララは友達だと思うけれど、「友達」というよりは家族に近い存在なんじゃないかな。最後までキツネからカララを助けたよね。何があってもカララは自分が守らなければならぬと思っているんじゃないかな。どんな言葉で表せるかな。 ○最後、一緒に南に飛んでいくところで、クルルとカララの関係が元に戻ったと思っていたけれど、もしかしたら今回のことで互いの大切さを実感して、更に関係が深まった気がするな。	○「つばさの音」の対比でクルルの心情を表しているから、「つばさ」という言葉が心に残った。 ○クルルがまた前を向いて自信を取り戻したことを表しているから「風切るつばさ」が題名になったんじゃないかな。 ○副助詞や対比からも登場人物の心情が分かって気付いたよ。これからも意識してみよう。 ○人物の関係が変わることによって心情が変化しただね。		
	知識・技能	(1) オ 語彙 語感や言葉の使い方 ○言葉のもつイメージ ・風 ・風切る ・つばさ ・風切るつばさ	(1) 言葉オ 語彙 語句と語句との関係 語句の構成 ○心情を表す様々な語句について、似た心情を表す言葉、反対の心情を表す言葉に気付き、関係付ける。 ○慣用語、副助詞の効果に着目して心情を捉える。 (1) 言葉オ 語彙 語感や言葉の使い方 ○心情を表す様々な表現があることやそれらに着目して読むことにより人物の心情をより深く想像する。 (2) 情報ア 情報と情報との関係 原因と結果 ○出来事(原因)と中心人物の心情(結果)。出来事・人物の相互関係の変化(原因)によって中心人物の心情がどう変化したのか(結果)。 (2) 情報イ 情報の整理 情報と情報との関係付けの仕方 ○「表現と心情」「人物の相互関係の変化と心情の変化」などを関係付ける。 ○「対比」表現と関連付けて、中心人物の心情の変化を捉える。	<語句をより理解するための方策> その語句の ①有無 ②言い換え ③経験の想起 ④辞書的な意味	(1) オ 語彙 語感や言葉の使い方 ○言葉のもつイメージ ・つばさ ・みっともない、みじめ 雑音、いやだ、つらい まい上がない ① 心地よい、リズム 力強い、ぐんぐんのぼる			
評価	評価規準	知 語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。(1)オ	国 進んで物語の全体像について描写を基に捉え、学習課題に沿って、読み取ったことを表現しようとしている。	思・判・表 「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり表現の効果を考えたりしている。C(1)エ	思・判・表 「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり表現の効果を考えたりしている。C(1)エ	国 進んで物語の全体像について描写を基に捉え、学習課題に沿って、読み取ったことを表現しようとしている。	思・判・表 「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり表現の効果を考えたりしている。C(1)エ	
	具体的な姿	○心情を表す言葉や文体、用いられている言葉による表現の効果について考え、クルルの心情を具体的に想像している。	○副助詞の役割や効果、心情を表す言葉の意味の理解を広げたり深めたりしている。	○クルルとカララの関係や変化の原因について表現に着目して考え、物語の全体像を捉えている。	○友達と伝え合うことで、自分の考えや着目した表現を振り返り、クルルとカララの関係について考えたことを書きまとめようとしている。			
指導に生かす評価(形成的評価)	知・技(1)オ 思・判・表 C(1)エ 主体的	知・技(1)オ 主体的	主体的	知・技(1)オ 主体的	知・技(1)オ 主体的	知・技(1)オ 主体的	知・技(1)オ 主体的 次単元の指導に生かす	

① 登場人物の心情を捉える際に様々な表現や人物の相互関係に着目して読んでいる。
② 表現の工夫や効果に気付いて読んで読んでいる。(～すら～でさえ～しか～しか 言葉に込められた心情 対比)
③ 表現に関心をもつて語彙を増やしたり、表現を工夫して話したり書いたりしようとしている。